

## 令和6年度第1回小諸市総合教育会議議事録（概要）

日時：令和6年9月19日（木）午後1時30分から午後3時00分

場所：小諸市役所3階 第1、第2会議室

出席者：市長 小泉 俊博

教育長 山下 千鶴子

教育長職務代理者 矢嶋 真

教育委員 柳澤 由美子

教育委員 田中 隆之

教育委員 小山 真紀

進行：柳澤総務部長

事務局：安藤教育次長、吉澤学校教育課長、小林企画課長、小林再編整備係長、三井企画調整係長、高柳主幹指導主事、再編整備係員、企画調整係員

### 議事内容

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

（小泉市長）

皆さんこんにちは。平素は、小諸市の教育行政の推進に多大なご尽力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、本日は、小諸市総合教育会議を開催しましたところ、ご多用の中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。本題に入る前に少しお伝えしたいことがあります。6月5日の厚生労働省の発表によると、2023年の出生数は72万7277人、2022年に80万人を切ってからさらに減少してきており、少子化に拍車がかかっています。一昨年から昨年にかけて、日本の人口は約84万人が減少しましたが、これはおおよそ和歌山県1つ分に相当します。合計特殊出生率も1.2とかなり低下しており、過去最低となっています。統計が始まった1947年の合計特殊出生率が4.54であったため、出生率の減少は著しく、日本の人口減少は止まらない状況です。そういう中で子ども達の教育は、より重要となってきます。さて、本日の議題についてですが、本市の基本計画の大きな柱の一つであります「子育て・教育」につきましては、社会情勢の変化にとらわれず、子どもたちが自らの課題を見つけ、自ら学び、考え、判断して行動できるよう「生きる力」を育むために、豊かな心と健やかな身体の育成・基礎学力の向上等に取り組み、その学びを支える教育環境の整備に向

け、教育委員会とともに、施策の推進を図っていくこととしております。3期目の市長公約において、小諸市が市内外の人々から選ばれ、持続可能なまちで在り続けるために、目指すべき姿、ビジョンとして「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」を掲げ、各種施策を実施しているところですが、これは、「健康・福祉、子育て・教育、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営」など、あらゆる分野において「健康」「健全」であることで、市民が健康で生きがいを持ち、安全・安心で豊かな人生を営めるまちを目指すものです。その中でも、特に「人口動態における自然増への挑戦」を掲げていますが、自然増とするためには、若いファミリー層世代に安心して子どもを産み、育てていただくことや、教育の充実を図ることが重要となります。そして、市内外の方々から小諸が「選ばれるまち」、「魅力があり、価値を生み出すまち」であるためには、まずは、「教育」が「健康で健全」であることが不可欠だと考えています。急速に進む少子高齢化、国際化や情報化の進展、さらにはライフスタイルの変化など、子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化しており、加えて、コロナ禍によって、教育現場を取り巻く情勢も日々変化を強いられています。このような情勢を的確にとらえ、これまで培われてきた本市の教育方針をベースに、時代の変化に迅速に対応した施策を進めていく必要があると考えております。この総合教育会議については、この場で結論を出すというよりも、率直に意見を出し合う中で、市と教育委員会が、相互の役割・権限を尊重しつつ、本市の教育の将来像や課題を共有し、効果的に教育行政を推進するために設置されているものです。本日は、今後の小諸市の義務教育の根幹となる「小諸市小中一貫教育推進基本方針について」を議題とさせていただきますが、是非、皆様には、忌憚のない、積極的なご発言をお願いしまして、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 会議事項（進行：柳澤総務部長）

#### （1）小諸市小中一貫教育推進基本方針について

（高柳主幹指導主事より、資料に沿って策定経過や小中一貫教育ビジョンについて説明）

（柳澤総務部長）

本日は、今の説明の中から2つのテーマに沿って議論を交わしたいと思います。1つ目のテーマは、資料の5ページから記載のある「小中一貫教育推進のための視点」についてです。「対話と協働の学びの推進」、「子どもを主人公にした自治的・創造的な学校風土の醸成」、「すべての子どもを包み込む居心地のよい学校づくり」の3つの視点が記載されていますが、どの部分についても良いです

のでご意見をお願いいたします。まずは、小泉市長からご意見をお願いします。

(小泉市長)

基本方針案の策定に関わっていただいている方々に感謝申し上げます。小中一貫教育ビジョンということで、年間の学びというものを一つの形として示していただき、私が考えていた様々な課題に対して大きく解決に向かって前進すると思いました。小中一貫教育推進のための視点は3つありますが、低学年の内からしっかりと言語・国語力を身に付けることで、学びのシャッターが下りることなく、学習に意欲的に取り組むことができるはずです。江戸時代の寺子屋の時代から、先生が教え、生徒が聞くという一方通行の教育が当たり前であったと思いますが、基本方針案では子ども達が小グループごとにインプットのみではなくアウトプットも行うということです。大変期待しています。先生から一方的に話を聞くのではなく、議論することで当事者意識が高まることに繋がります。現在、若者の投票率は低く、自分の生活に関係が無いものには関心を示さず委ねてしまっています。自立した人を育てるという点で、当事者意識を高めるのは理に適っていると思えます。学級担任のあり方について言えば、麴町中学校など複数担任制を導入している学校もあります。子どもも大人も気の合う人と気の合わない人がいるのは当然のことであり、先生と子どもは長い時間関わると思いますが、合わなかった場合はお互いに良くないと思えます。先生の負担軽減や先生の良さを生かしてもらうには必要な仕組みであると考えます。この仕組みを機能させることにより、今まで抱えてきた課題の解決に繋がるとともに、この学校で育った子どもたちが世の中を引っ張っていくことになると思えます。是非こういった形で進めていただきたいと思います。

(柳澤総務部長)

委員の皆様、ご意見ございますか。矢嶋職務代理いかがでしょうか。

(矢嶋職務代理)

小泉市長の意見について、教師が主導的に教え込むのではなく、そこから脱却するというお話に共感しました。先生によっては静かにじっと聞いてもらうことが良いと思込んでいる先生もいて、授業の仕方や考え方も人それぞれであり、子どもが話し合う授業を広めようと考えても、今までは実現することは難しかったです。小・中学校の先生同士が交流できるという点はすごく良く、中学校の教員は教科の研究に長けており、小学校の教員は子どもを見ることに長けていますが、これらをお互いに学び合い、鍛えあうことができると思えます。一般的な学校だと小・中学校間で先生が行き交うのはハードルが高いですが、今回の

基本方針案の仕組みにより交流できるようになることは大変良く、教師の力を付けるという面で効果的です。今までは、交流したくても反対する先生がいるとなかなか進まなく、また校長先生に許可を得て進めていく必要もありました。しかし、新校ではそういったプロセス無しに小・中学校間で交流を行うことができるようになることは魅力的です。

(柳澤総務部長)

次に柳澤委員いかがでしょうか。

(柳澤委員)

きめ細かく調べていただいた上で基本方針案を作成していただいているので共感できる内容です。対話と協働の仕組みは、9年間ですごく良い結果が出るのではないかと思います。先生たち自身がメリットを感じようになることで、初めて子どもにも良い影響が出ると思います。

(柳澤総務部長)

次に田中委員いかがでしょうか。

(田中委員)

事務局からの説明を聞いて、わくわく感や高揚感を感じており、未来は明るいように思います。しかし、これを達成していくという点については、ドキドキしており、気を引き締めていく必要があると感じています。さまざまな学校を見学しましたが、学びのシャッターが下りるということをいくつか目の当たりにしました。シャッターが下りてしまうと、その子にとっても、日本にとっても物凄い損失です。そういった子どもが少なくなっていくよう期待したいです。中学校2校の文化祭を見ましたが、雰囲気の良い文化祭でした。先生の力もありますが、それは子ども達の実力が発揮された結果であると思います。今後、子どもの教育が1段1段上がっていくように感じています。

(柳澤総務部長)

次に小山委員いかがでしょうか。

(小山委員)

教育委員になり1年9ヶ月が経ちます。最初は知らないことだらけでしたが、皆様から色々と教えていただきました。今回の案についても、何回も検討を重ね、私たち教育委員の意見も聞いてくださり、本当に感謝申し上げます。私は総合計

画審議会にも関わらせていただいておりますが、説明のあった基本方針案を進める事で、小諸市の理想的な教育を実現できると思います。読む・聞く・体験するといったインプットは楽しいですが、アウトプットが苦手な子が多い気がします。対話と協働の学びは、わからなければグループの人で教え合い、そして発表することでアウトプットの習慣が身に付いてくるはずです。中学校の文化祭を見ても、子ども達はこんなにも色々な事ができるのかといつも驚かされます。小諸東中学校の保護者や生徒が自分達の学校区はどうなるかと心配されていますが、そちらについてもどのようにしていくか示されており良いと思います。お互いの校区で切磋琢磨しあえると思います。

(柳澤総務部長)

次に山下教育長いかがでしょうか。

(山下教育長)

開校に向け、これからは令和の教育をしなければなりません。特に教員の意識改革をしなければならないと思っています。教育委員それぞれからも意見がありました。教員の意識改革を進めるにあたっては子ども達をもっと信頼すべきであると思います。各地に、先進的な学びを上手く進めている学校や、上手くいっていない学校など様々な学校がありますが、それらを参考に進め、意識改革としては、今までと学びのスタイルを変えることが重要です。グループでただ話し合い、発表するのではなく、子ども達が自分達で考え、友達のノートを見て、わからないことを聞き、話し合う、それがこれからの学ぶスタイルではないかと思っています。子ども達が自らの力で、対話と協働という学びを進めるのです。先生方が何もわからない状態ですので、芦原中学校区で公開授業をして学び合ったり、先進学校の授業をDVDで見たり、もしくは直接先進学校を視察するのも良いと思います。そして、これを進めるにはリーダーが必要ですが、9年制の学校を校長による強いリーダーシップの下で進めるべきです。

(柳澤総務部長)

他にご意見ある方はいらっしゃいますか。小泉市長お願いします。

(小泉市長)

教育の課題について触れたいと思いますが、例えば貧困の連鎖があり、そういった家庭が一概にそうであるとは言えませんが、実際に家庭収入が少ない家庭の子どもは学力が伸びない傾向にあります。学力が伸びないのは、親子でコミュニケーションをしっかりと取り、対話を深めることがあまりできないことが原

因の1つなのではないかと思います。幼いうちから対話を習慣づけることが重要です。基本方針案の仕組みをしっかりと機能させることができれば、この課題を解決していくことに繋がります。そういう部分の必要性を先生方にも感じていただきたいと思っています。また、今まで開花しなかった能力を開花させる子ども達も出てくるかもしれません。コミュニケーションが上手くできない、考えを上手く伝えられないといったことを克服することで、子ども達が前のめりに学校に行きたいと思うようになってくれれば良いと考えています。

(柳澤総務部長)

それでは、山下教育長お願いします。

(山下教育長)

ネガティブケイパビリティという言葉がありますが、子ども達が分からないけどもで頑張ろうと思えることが重要であり、また、お互いに堂々と分からないと言える間柄が大切だと思います。そういう学習を重ねていくことで、人間関係が良くなっていくとともに、学びの喜びを感じていけるのではないかと思います。

(柳澤総務部長)

もう一つのテーマとして、義務教育学校を目指していこうということであるが、メリットとデメリットについて議論をしたいと思っています。それでは、矢嶋職務代理からお願いします。

(矢嶋職務代理)

高柳主幹の説明の中でデメリットの話がありましたが、その通りだと思います。千葉県のア蘇米本学園を見学した際の校長先生のお話ですが、上手くいっていない部分があり、いろいろな意見が出てきてしまっているが、その都度修正しながら進めていると話されていました。小諸市で初めて義務教育学校を始めますが、色々と課題が出てきてもそこを修正しながら進めるべきだと思います。初めから完璧な状態ではなく、未完成でもこれから創り上げていくという気持ちでいくべきです。

(柳澤総務部長)

次に柳澤委員いかがでしょうか。

(柳澤委員)

デメリットについての説明は無い場合が多く、今回はデメリットについても説明いただいているありがたいです。最初からデメリットを考えて対応していくことは大切だと思います。私は基本方針案を読んで、知らなかったことが複数ありました。これから、市民の皆さんにわかりやすいように知っていただくことが大切だと思います。私は同居の孫が新校に入る予定ですが、新しい学校に3人の孫が同時に通うことができるようになり、どのように育っていくのか今から楽しみにしています。

(柳澤総務部長)

次に田中委員いかがでしょうか。

(田中委員)

デメリットは、ここで変えないことが一番のデメリットだと思います。気づいたときに対応していくことが重要です。メリットも思わぬデメリットを生むこともあると思いますが、スポンジのように吸収して対応していくべきだと思います。

(柳澤総務部長)

次に小山委員いかがでしょうか。

(小山委員)

メリットが大きいということをみんなで共有して進める事が重要です。デメリットに対する対応方法や、デメリットからメリットへの変え方が示されており良いと思いました。保護者の皆さんは不安に思われていることが多いと思うので、聞く機会を設けて、それらを丁寧に確認しながら進めていくべきだと思います。

(柳澤総務部長)

次に山下教育長いかがでしょうか。

(山下教育長)

校長先生1人の下で教員が同じビジョンに基づき同じ方向に進んでいく必要があります。小中一貫校を進めていく上で、様々な課題がありますが、一番は免許の問題です。小学校・中学校それぞれの専門の免許を持っているかどうかで教科担任制の際に不具合が生じます。しかし、メリットにも成り得ます。新校では、従来の小学校・中学校それぞれへの教員配置ではなく、両者が組み込まれた配置

がなされるはずです。また、先生方にはビジョンの共有の他に、新たな学校文化の創造にも力を入れていただきたいです。権威のある先生から子どもが学ぶという構図ではなく、先生と子どもが対等な思いで教育がなされればと思っています。

(柳澤総務部長)

次に小泉市長いかがでしょうか。

(小泉市長)

様々な課題を抱えている中で、一方通行の教育方法は限界が来ていると思います。子どもが自ら動き、考えを巡らせることで、時代にあった教育になると考えています。デメリットについては、やらないことが一番のデメリットだと思います。トライアンドエラーにより、課題を見つけたらどんどん変えていくようにすべきです。また、基本方針案の中では、言い切りの形で書かれていて良いと思いました。小諸の学校教育を考えていくにあたり、小中一貫教育を進める事が大切であると言い切っていきたいです。長野県のファーストペンギンとして、デメリットが出てきたらそのたび対応し、令和10年が100%でスタートするのではなく、進めながら皆で対応していくことを考えています。携わる人は覚悟と責任を持って推し進め、大人も子どもも成長できるものにしていくことが重要だと思います。

(柳澤総務部長)

最後に、委員の皆様からご意見があればお願いします。

(小山委員)

皆さんのご意見を聞いて、人それぞれ着目する部分は違い勉強になりました。自分がこれからどう関わっていくか考えていきたいと思っています。

(柳澤委員)

今回の方針案は、他の行政から出される計画や方針とは違い、一つ一つが説明的かつ柔らかく書かれてはいるが、文章としては断定的な記載となっており胸を打たれました。これを読めばどなたでも納得するのではないのでしょうか。

(田中委員)

素晴らしい方針ができて、その後どのように進めていくかが重要だと思います。私なりにその部分に力を発揮できればと思っています。

(矢嶋職務代理)

皆さんから、やらないことや変えないことがデメリットという言葉を受け大変心強く思っています。

(山下教育長)

これから公開授業や文化祭などで子ども達を見る機会がありますが、子ども達の変化を見て頂きたいです。また、小泉市長にも感謝します。祖国とは国語ということで、国語力に着目していただいたのはありがたいです。そのお考えが対話と協働につながったと思います。

(柳澤総務部長)

本日は、小諸市小中一貫教育推進基本方針の案について、市長と教育委員で確認を行いました。今後、当方針に沿って、教育委員会でご議論いただきながら進めていただくこととなります。

(2) その他

【議題無し】

4 閉会

以上